

薬局薬剤師による在宅患者残薬調整に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2019年6月26日 ～ 2020年3月31日

〔研究課題〕

薬局薬剤師による在宅患者残薬調整の経済的効果に関する研究

〔研究目的〕

日本は65歳以上人口が26%を超えた超高齢社会となっています。高齢者は若年者に比べて薬を使用していることが多く、それに伴って飲み忘れ等による残薬が増える傾向にあります。厚生労働省は、2025年を目途に高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を推進しており、薬局薬剤師が在宅患者を訪問して残薬の調整することが増えています。本研究では、在宅患者の残薬状況を把握し、薬局薬剤師による残薬調整の実態を調査することを目的とします。

〔研究意義〕

在宅患者の残薬削減と薬の適正使用を推進する手がかりになると考えます。

〔対象・研究方法〕

ふたば薬局およびみつば薬局の薬剤師が在宅訪問をしている患者さんを対象者として調査します。対象者の薬歴情報等から、残薬状況とその対応を調査し、残薬が発生する要因と残薬対策の効果について解析します。2017年10月1日から2018年9月30日の間の薬歴情報を調査の対象とします。

〔研究機関名〕

帝京大学薬学部地域医療薬学研究室

〔個人情報の取り扱い〕

研究対象者の個人情報の漏洩防止策として、薬歴情報等にある個人情報が特定できる管理番号等は、匿名化番号として暗号化します。患者さんの生活背景、残薬状況などの情報は、調査用紙に記録し、すべての情報は匿名化番号をもとに管理し、個人を特定できるような情報管理は行いません。使用後の調査情報は、研究終了後、定められた期間、厳重に管理した後、情報漏洩に配慮した適切な方法で破棄します。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者： 安藤崇仁(帝京大学薬学部講師)

研究分担者： 安原真人(帝京大学薬学部教授)、東美紗央(帝京大学薬学部学生)

住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 大学棟本館 917 TEL:03-3964-1211(代表)〔内線 49472 〕